

## ハムフェア2010に行ってきました

JA3IVU 北井 十生

開場前



8月21、22日と2日間、東京ビッグサイトで開催されました「ハムフェア2010」に行ってきましたのでその様子を報告させていただきます。昨年は、ロシア旅行の帰りに出かけましたが今年は8月20日(金)の夜に天王寺駅前を出発する高速バスで新木場駅前に到着し、りんかい線でビッグサイトへ。

9時20分ころ会場に到着すると開会式が始まる前でしたので、早速、入場券を買って開会式を待ち、その後、会場へ。いつものようにメーカー展示には目もくれず「クラブブース」へ。どのフェアに出かけてもジャンクは最初の日の午前中が勝負です。これというめばしいものがあればとにかく買う(あとでなんでこんなもの買ったのだろうと毎回反省していますがなお「ませんHi」)。考えていてはすくなくなくなります。ここは東京ですのであまり重いもの大きなものは買いません。(重い物は宅配便で送ればいいのですが。)クラブブースを2~3回まわりました。JA3USA島本さんが「APDXC」のPR、そこにJA3AOP杉山さん、「JLRS」へ行けばJR3MVF三好さんにお会いしました。昼食は大阪から来ている人たちと会場外のレストランへ。感じたことですが毎年ブースが少なくなってきたような気がしました。

夕方、関西方面から来た人たちと新橋の居酒屋で懇親会があり参加してきました。JA3HX長谷川本部長、JA3FA井上ICOM会長など20人ちかくが集まりました。そこには関西の方だけでなくJA1、JA2の方も参加されていました。



ICOM IC-9100 展示

さて、会場の中ですがアンテナ関係(釣り竿ループアンテナ、簡単に組み立てができるビームアンテナ)、CWブームなのでしょうかエレキー用バトル等が目立ちました。

メーカー展示では、アイコムがHFから1200MHzまでのIC-9100(1200MHzはオプション)(IC-7400にそっくり)を展示して盛んにPRをしていました。リグのリモートコントロールの紹介もしていました。最近ではアンテナが自由に建てられないHamが増えてきたためでしょうか?(私もそのひとりです。)

ケンウッドはTS-590を展示していましたがいままでものに少しバージョンアップしたようなものでした。CQ出版のブースでは関西ではお馴染みのJA3CHS小永井さんの「な爺の電波教室」が開催され子どもたちが熱心に実験を見て話を聞いていました。また、まわりの大人たちも実験の都度「なるほど!そぞだったのか!」わかりやすいとの声が聞こえていました。将来のHamを育てるにはよい催しだと思いました。

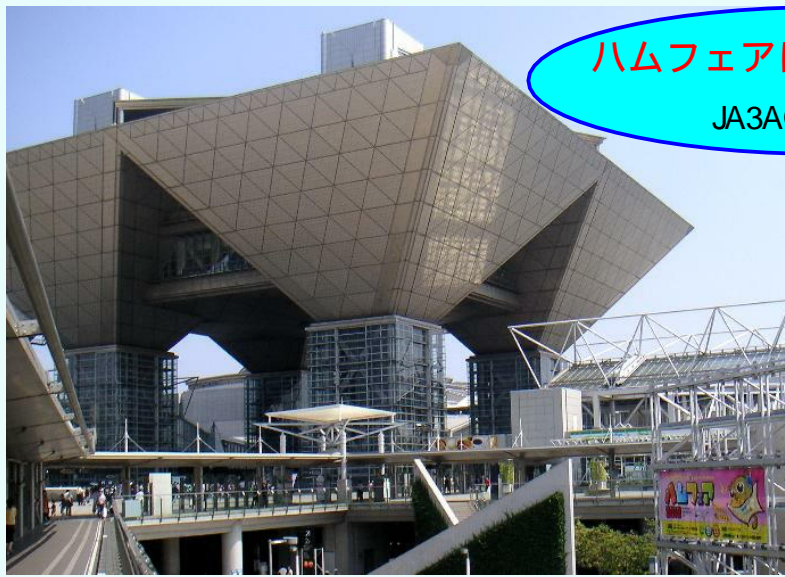




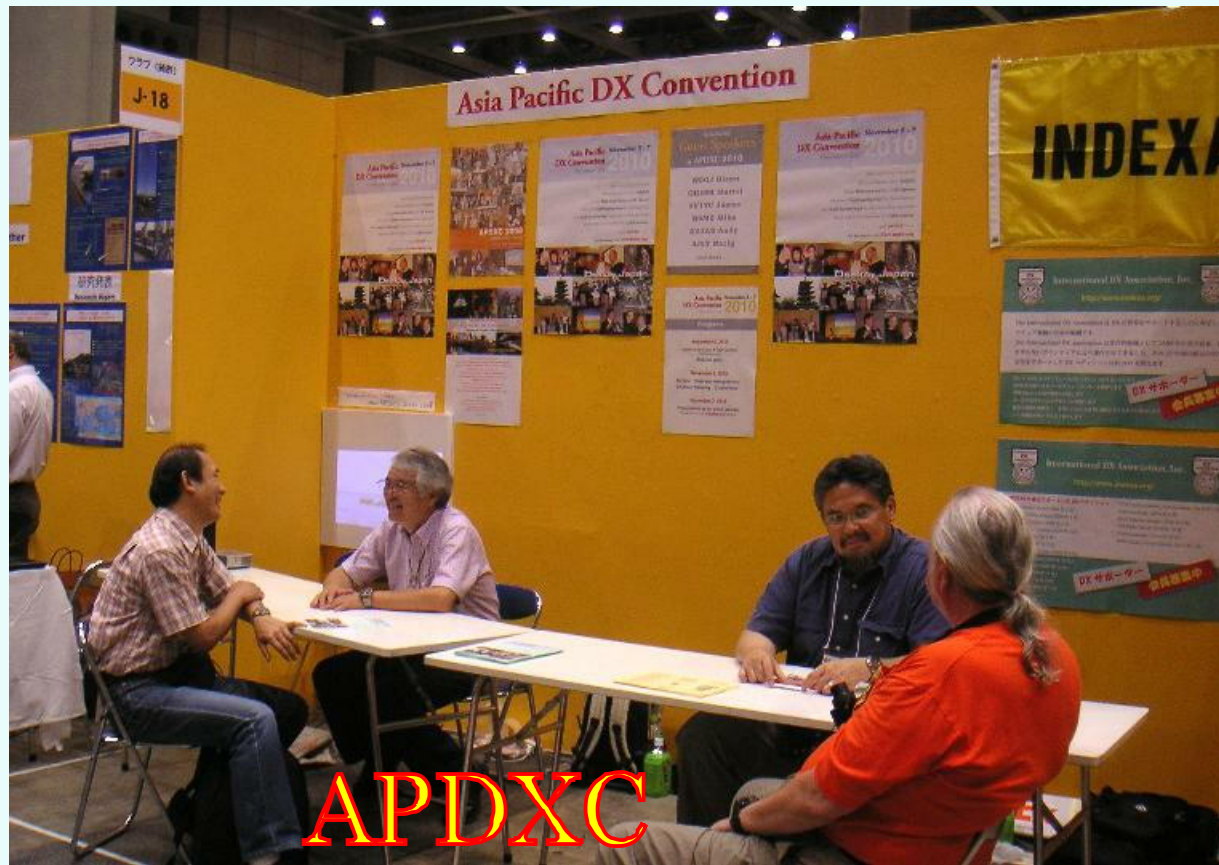
KENWOOD TS-590 展示



CQ出版のブースでの「な爺の電波教室」  
JA3CHS小永井さん、アシスタントはJA3ARJ大串さん



ハムフェアに行きました  
JA3AOP/杉山 暁



APDXC

Scheduled  
**Guest Speakers**  
at APDXC 2010

W0GJ Glenn  
OH2BH Martti  
9V1YC James  
N6MZ Mike  
UA3AB Andy  
4J5T Natig  
and more ...

**Asia Pacific DX Convention 2010**  
November 5 - 7  
<http://apdxc.org>

**Programs**

November 5, 2010  
Icom factory tour & Q&A session  
(for DX visitors only)  
Welcome party

November 6, 2010  
Bus tour "Make your own green tea"  
DX dinner following "Cocktail time"

November 7, 2010  
Presentations by our guest speakers  
プレゼンテーションは参加費用はありません



姫路のDXグループもAPDXCブースを訪問してくれました

photo: J13ZAG 8月例会



8月例会は大阪国際交流センター・レストラン特別企画のバイキング料理を楽しみました。

# ロシアへの旅

JA3USA 島本 正敬

今年7月上旬にモスクワで開催されたWRTC 2010。その主催者代表 RZ3AA、副代表 UA3ABとRA3AUUの3人は2005年のAPDXCにも来てくれた仲間とあって、少しでも賑やかすることができたらと物見遊山で出かけることにしました。今回で3度目のモスクワですが、これまでの訪問はロシアのアマチュア無線連盟の国内コンベンションに出るだけのもので、観光も殆どなし、ホテルに泊まったことも、ロシアのお金を使ったこともありませんでした。WRTCについてはCQ誌上でも既に紹介されていますし、今回はある意味初めてのロシアへの旅でしたので、ひとつの旅行記としてお話をしようと思います。

## WRTC

[外国人にも免許]

WRTCでは世界からハムが集まってコンテストを行います。にもかかわらず開催が決まった段階でのロシアは外国人にハムの免許を与えていませんでした。ですから、WRTC 2010には他の場所では考えられないくらいの量の準備作業が必要でした。事前に予想されたWRTC 2010の開催費用は日本円で何と約6千万円。それも殆どの作業をボランティアが行ったとして、の費用です。このようなハードルをいとも簡単に乗り越えて開催されたWRTC 2010、このことからロシアのハムの政治的、経済的パワーを測り知ることができます。

[48局]

これまでのWRTCでも多くの局が準備されてきましたが、今回のWRTCの特に注目すべき点は、そのすべてが仮設局で、その上地理的な条件が全ての局において極めて近く設定され各局間の差が最小限となっていたということでしょう。しかもその総数48局。モスクワには国際線が発着する空港が二つありますが、その中でも殆どの国際航空会社が発着するようになった空港のあるドモジェトボにWRTCの局が設置されました。48もの局を殆ど同様な環境で設置するには広大な場所を自由に使えないと実現しません。この地の市長(知事?)がDX-erであったことが大きな助けになったはずです。聞くところによると48局のアンテナ等機材がコンテスト終了後数時間で撤去されましたが、それには軍のトラックが用意されていたそうです。



WRTCのモスクワ観光ツアー。コンテストの真最中のため、参加者は殆ど女性。

WRTC参加局のセットアップ。今回のWRTCでは、参加者が持ち込めるのは無線機だけで、その他は主催者が準備する。送信出力は100Wに制限されているため無線機の出力電力の監視装置が準備されていて、送信出力が105Wならオレンジ色が、110Wなら赤色で表示されるようになっている。それを見て審判が出力に違反がないかを監視する。タワーはロシア製のハム用。その上のアンテナはF12アンテナをコピーしたロシア製のアンテナ。





WRTC貸切同然のホテルロビーに設けられたコンテストモニター。48局の運用状況が刻一刻と表示される画面に見入っている人達

[24時間で何と3500局 それも100Wで]

WRTC 2010を終えてスコアを見ての驚くのは、これまでのWRTCでは最高でも2500程度だったQSO数が3400以上とした局が何と48局中11局もいたことです。また、いつもなら上位を占めるはずの米国勢の最高位ですら今回は3位で、1位と2位は欧州勢でした。これは欧州、それも北東の端ロシアで運用するには、これまでの地域での運用と異なった作戦が必要だったからだと推測されます。

[コンテストの実況中継]

WRTC 2010参加局はすべて本部とインターネットで結ばれていて、本部が設置されたWRTC貸切同様のホテルのロビーではリアルタイムで各局のスコアが表示されていました。その横ではビデオカメラが設置され時折実況中継がインターネットのストリーミングで世界に送信されていたので、ごらんになった方もあるかもしれません。

[エンターテイメント]

WRTC 2010は表彰式を兼ねたディナーで幕を閉じました。それは大きなテントで作られた仮設バンケットルームで、WRTC 2010の参加者や主催者側関係者に加え、僕らのような野次馬訪問者等、200人がそれ以上の人々が集い、舞台には歌、演奏、ダンス等数多くのエンターテイメントが準備されていました。そのエンターテイメントを挟んで各賞の発表と賞品の授与がテンポ良く行われ、同行のKarenのようにハムに余り興味がない人にも退屈させない進行の中、楽しい雰囲気を保ちながら夜遅くまで続けました。



WRTCの表彰式とディナーが始まる前の会場。もう半数近くの人々が集まってきている。



WRTC上位入賞者のカップ



いろいろなエンタテインメントを挟んで進行した WRTC表彰風景



WRTC最後のプログラム、表彰式とディナーでのショーのひとつ

### 熱波がロシアを襲う

各種報道でもご存じでしょうが、大変な熱波がロシアを襲いました。夏の平均最高気温が摂氏25度にも満たないモスクワやサンクトペテルブルグで35度を超える日々が続いたのですから、異常という言葉では足りないくらいの暑さでした。その熱波が始まったのが WRTC 2010が開かれた7月初め。モスクワでは行く先々でエアコンに恵まれましたが、北緯60度と北にあっていつもの夏なら最高気温が20度を多少超えるだけというサンクトペテルブルグでは、大きなホテルのレストランにすらエアコンがなく、久々に汗びっしょりの日々を過ごす羽目になりました。



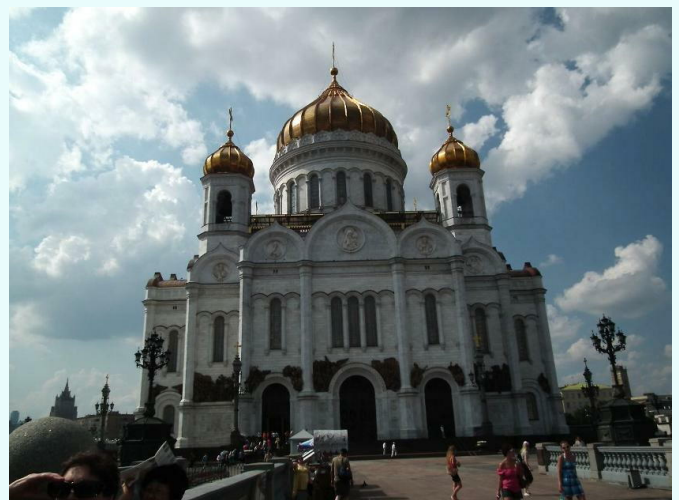
ソ連時代のレストランのシステムや雰囲気を提供するレストラン。それが結構な人気。



中にいくつも大きさの違う木の人形が入ったマトリョシカ。伝統的なデザインのものだけでなく、プロスポーツNFL、MLB、NHLから政治家、エンタイナーまでいろいろなものがある



このサインは「STOP」。左端の「С」に見える文字はロシア語ではアルファベットの「S」の発音。右端の「П」のような文字は「P」の発音。これをロシア語で読めば、音は英語のSTOPとほぼ同じ。



クレムリン近くのハリストス大聖堂。宗教はアヘンとの考えからソ連時代に爆破された。その後温水プールとなったが、ソ連からロシアに変わり爆破以前の建物が再現された。



スーパーマーケット内。通路を示す看板の数からも判るように、超大型の食料品専門店で食料品ならなんでも揃う



モスクワ郊外にあるショッピングモールの建物内。多くの専門店やスウェーデンのイケア、大型スーパーマーケット、映画コンプレックス等がある超大型施設。

## 夏の北緯60度

モスクワは北緯55度、サンクトペテルブルグは北緯60度。ロシア滞在は夏至が過ぎて間もなくの頃でしたから、夜が短く、モスクワであたりが暗くなるのは午後10時を過ぎてから。これは以前にもカナダで経験した程度でしたが、そこからたった5度北にあるサンクトペテルブルグでは、初めて白夜に近い夜を経験しました。深夜を過ぎてからも窓の外の景色は薄明るく、表の景色をフラッシュなしでカメラに収めることができます。ここサンクトペテルブルグ滞在中、午前2時頃と4時頃に窓の外を見る機会がありました。夕焼け西の空に見えるようなオレンジ色の空が北西から北東へと移動しているのです。また日中に熱波の暑さを逃れ、公園のベンチで涼んでいる人に交じっていて、ふと時計を眺めると午後11時。まだ明るい中、ホテルの部屋に戻ることもありました。



暑い、暑い。左からVE7CC、彼のXYL、JA3USAのXYL Karen



深夜を過ぎてから撮った写真  
(サンクトペテルブルグのホテルの窓から)

## ロシアの国内航空

ロシアの空港へ行くとイリューシンやツポレフとか、旧式のロシアの機材を使ったエアロフロートの飛行機が一杯、と想像される方もあるかもしれませんが、5年前に初めてロシアを訪れた時は多少その気配がりましたが、今のロシアでは多くの民間航空会社がボーイングやエアバスの機材を就航させています。今回モスクワとサンクトペテルブルグを往復する際にシベリア航空を利用しましたが、この航空会社だけでもロシア国内数多くの都市を頻繁に結んでいます。これらの航空会社の予約はインターネットで行うことができますし、早期予約や直前予約には特別料金も準備されていて、システムについては日本より米国に近い印象を受けました。

## ショッピングセンター

モスクワ周辺のショッピング・モールを訪れると、20年前に見たロシアからの報道映像とはイメージが全く一致せず嘘のような光景が広がります。特にスーパーマーケットでの品揃えの豊富さは、日本のかなり大きなスーパーマーケットと比較しても文句なしにモスクワに軍配があがります。それは野菜や果物、肉類からケーキやお菓子等殆どのジャンルについて言えるようです。さらにそこで見る商品価格を日本のそれと比較すると、全体に日本より多少は安いという感じです。現地の平均所得と比べるとかなり高いという気がしますが、所得格差が大きいいため中流かそれ以上には、それほど気にならない価格なのかもしれません。注目したのは、ウォッカやビールが驚くほど安いことです。ロシアのアマチュア無線の国内コンベンションで朝から出来上がっている人がいる理由が判ったような気がしました。

## ロシア正教の復活

共産主義時代に禁止されていた宗教活動。それがベレストロイカで解禁されロシア正教が復活しています。共産主義時代に破壊された教会が再建されたため、あちこちに真新しい教会が目につきます。この急速な復活からも、表立った教会活動が禁止されていた共産主義時代も多くの人々がロシア正教を忘れることが無かったことが伺えます。ロシアツアーに参加すると多くの教会を訪れることになりませんが、そこを訪れるロシア人がいかにロシア正教を大事にしているか、生活に密着したものかを感じ取ることができるはずで



日露戦争から生還した唯一の軍艦 巡洋艦オーロラ (サンクトペテルブルグで)



サーティワンアイスクリームのお店。メニューもアイスクリームの種類の表示も勿論ロシア語。



これが皆さんご存じマクドナルドのビッグマック

## モスクワとサンクトペテルブルグ

モスクワが東京ならサンクトペテルブルグは大阪、という印象をあちらこちらで感じました。サンクトペテルブルグには大阪に、神戸、京都や奈良をも加えたという方が正確な印象かもしれません。

## 日本との接点

ロシアに滞在中に目にした、耳にした日本との接点はいくつかあります。街の中の日本企業の製品広告や店頭に並ぶ日本のブランド商品は勿論ですが、意外なものは日露戦争で無事戻ったたった一隻の軍艦がサンクトペテルブルグに係留され見学ができたことでした。また、ニコライ皇太子(後にニコライ2世)が大津で暴漢に襲われた話がガイドの口から何度か出てきました。ロシア皇帝関連の宮殿や美術館での説明では避けて通れないからかもしれません。今回はWRTCが準備したツアーに参加しましたから、用意されたのは英語でのガイド。日本語ガイドならどう違うのでしょうか。

## ロシアの街角

ソ連がロシアに変わってから30年。自由化が進み街の風景はどんどん他の欧州の都市と変わらなくなってきています。でも、街で見かける看板、標識の類はロシア語。ご存じのように文字もアルファベットではなく他はギリシャ語でしか見えないように見慣れないもの。それも一部の文字はアルファベットの共通なのに音が異なるため、慣れるまでに余計に時間がかかります。アメリカから日本にもやってきているファーストフードの店先の看板でも表示はロシア文字で、それも聞くとところによると、食べ物を供給する場所の看板はロシア語でないといけないという法律があるとかですから、案内してくれる人がいなければ、「さあ昼食」と思っても、レストラン探検隊の一員と化してしまいます。



本当に暑かったサンクトペテルブルグの空港

シャッターチャンス

JA3AOP/杉山 暁



(上)  
オーストリアの最高峰ゲ  
ロースグロックナー山  
(3,797m)とパステルツェ  
氷河

(下)  
麓のハイリゲンブルート  
の村から望む

大阪国際交流センター・ラジオクラブ

JI3ZAG Osaka International House Radio Club